

# 見える検閲、見えない検閲

人文学研究科

上原早苗

日時 2026/3/20 15:00~16:15

場所 全学教育棟406



# 検閲の滑稽さとの遭遇

検閲・自己検閲の研究の面白さに魅せられて30年、昨年研究をまとめる  
『大衆検閲の時代ーヴィクトリア朝の道德主義とハーディ』  
(名古屋大学出版会、2025年)

関心の萌芽は、名画座での体験？

ルキノ・ヴィスコンティ監督『イノセント』

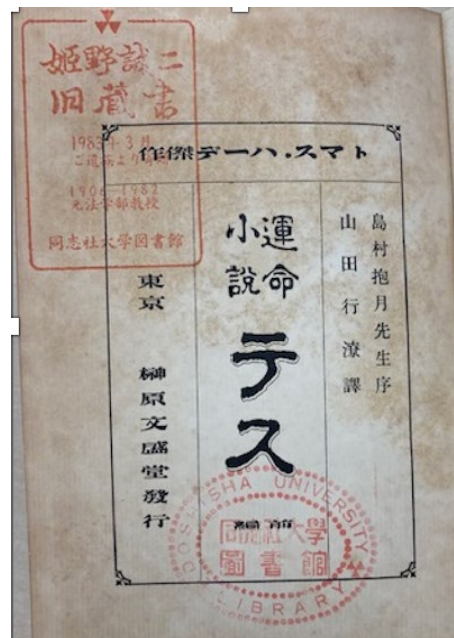
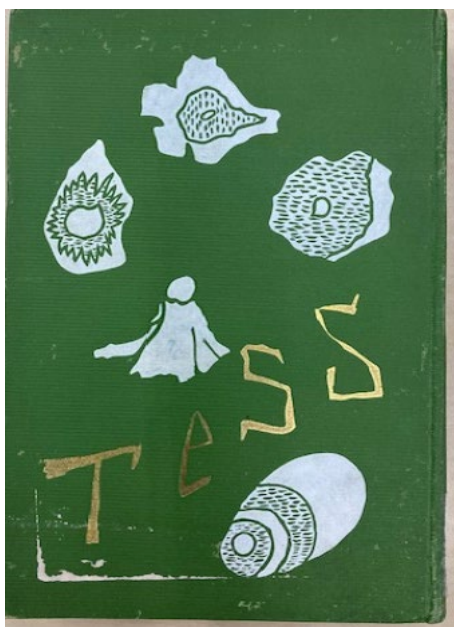
色塗り（ピンクの綿あめ）によって隠された「不適切なもの」

- 1) 色塗りに集中する観客の視線
  - 2) 煽られる観客の「見たい」という欲望
- 生々しさを削除するための色塗りは、生々しさの削除に成功したのか？

# 「日本型」の見える検閲

国際共同研究 Global Hardy Projectへの参加

⇒受容研究を通して「日本型」の検閲の面白さを知る



山田行潦訳『運命小説 テス』 榊原文盛堂 1912年

「不可せん、ふざけねで下さい、功徳になります」

「そんな事云つたつて登り切つてしまや誰だつて下りずにや居られないぢやないか」

斯ういつて彼は手綱を緩めた、馬車はまた風を切つて下り始める、二人の身体は烈しく揺れた、彼はテスの方へ顔を寄せて

「さア先刻のやうに私の腰へ捉まつた」とからかふ

「厭な事だ」

テスは決然と云つてのけて一生懸命に身体を中心を取つてゐる

「汝の其の赤い唇に一寸〇〇さしとくれ、それが厭なら其の熱つた頬でも可い、さうしりや直ぐ停める、必と停める」

テスは肝を潰して身を退らせた、するとアレクサンダは意地わるく馬に鞭を呉れて一層烈しく煽り立てる

「はかの事ぢや堪忍出来ねかの？」

テスは怖らなくなつて叫んだ、そして凄まじい見暮でアレクサンダを睨みつけた、母親が大骨折つて飾させたのが却つて仇となつた。

「堪忍出来ないとも」

「あゝどうしへ、可ござります、し、仕方がねえ」テスは切なげに息をはずませた。

アレクサンダは手綱を絞つた、馬車が静かになると顔を寄せて〇〇しようとした、此時、テスは夢から覺めたやうに飛退いた、両手が手綱で塞がつてゐるので胸もはたくも出来ない

「なにするツ―落ちたら二人とも首の骨エおツ挫いちまふぞ、よし、此の俺を救したな」むかつ腹な彼は聲を荒くした

「如何様しても〇〇しよつて云はつしやるなら仕方がありません、静としてます、

「これそんなに愛想なく別れるもんぢやないよ、さ、キス」

「お隨意に」と無頓著に答へて「ごらん、お前さんは斯様に私を温順しくしてしまつた」

テスは向直つて顔をあげた、そして石像のやうに静としてゐる、アレクサンダは其の頬に唇を當て、半ばお役目的に半ば未練があるやうにキスした、其間テスの眼は見るともなしに遠方の立木を見てゐた、彼女はまるで無感覺である。

「さ今度は其方の頬だ、馴染甲斐に」

テスは前と同様床屋に顔を剃らせるやうな容子で頬を向け變へた、彼女の頬は此邊の野に生えてゐる松茸のやうに、濕つぱく、冷たく、そして滑々してゐた。

「お前は僕にキスを酬して呉れないね、四月の間只の一度も欣んでキスして呉れた事はなかつたが——何年経つても僕を好きになる事はあるまいな」

「前に何度もさう云つたぢやありませんかよ、私やお前さんを心から懐かしいと思

山田行潦訳  
『テス』154頁

検閲官と出版社の共犯関係

# 日本 vs イギリス

## 日本

出版法（1893年～、1945年には実施的無効化）

内務省警保局図書課 検閲官による印刷物の事前審査

## イギリス

出版法 1695年に廃止

書籍の事前審査制度廃止

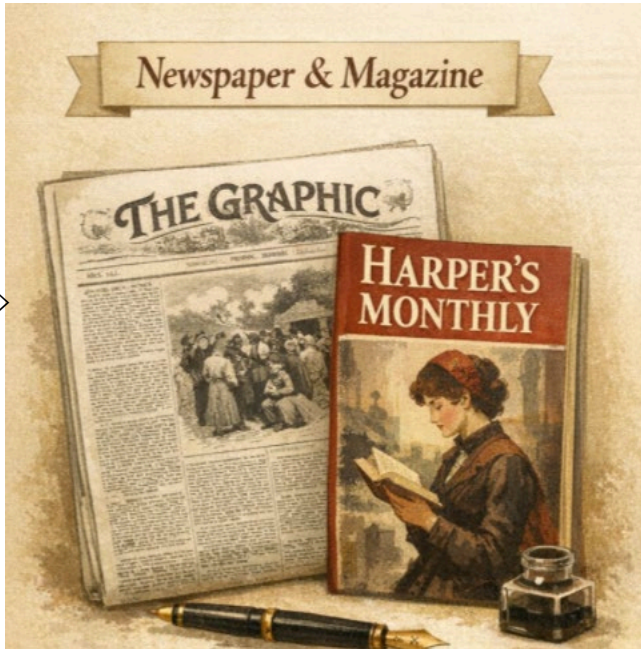
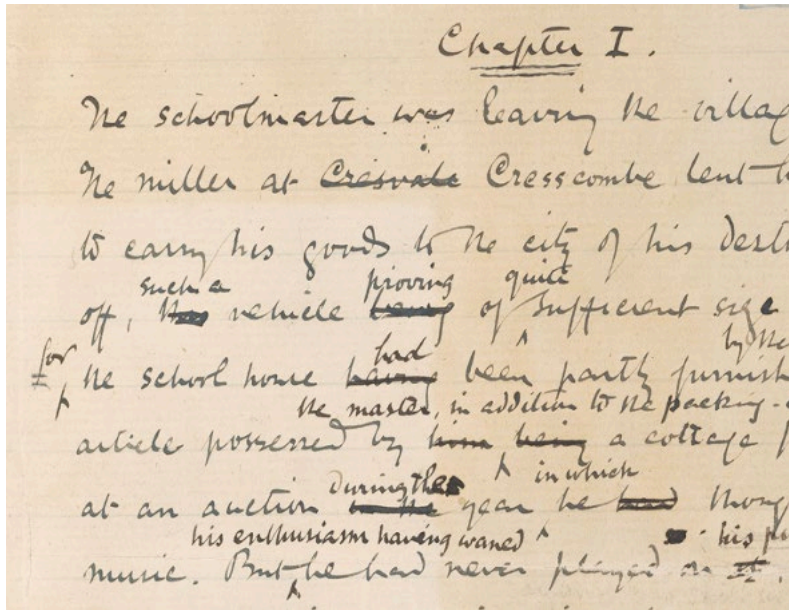
19世紀 道徳検閲

出版界の自主規制

ターゲット 小説

# 朗読文化

## 道徳検閲、大衆検閲の背景

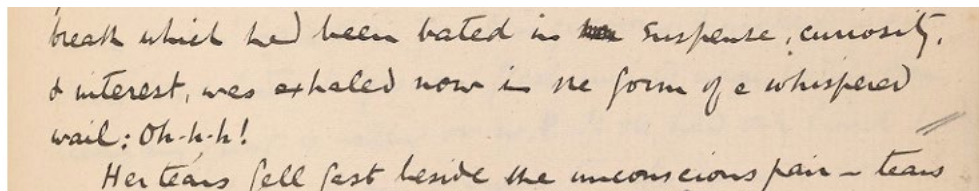


Thomas Hardy, the manuscript of *Jude the Obscure*, fol. 1 (部分), Fitzwilliam Museum 蔵

# 「イギリス型」 見えない検閲

ハーディの原稿

編集者の介入の痕跡（二重線）はあるけれど



Thomas Hardy, the manuscript of *Far from the Madding Crowd*, fol. 2-233,  
Beinecke Rare Book and Manuscript Library, Yale University 蔵

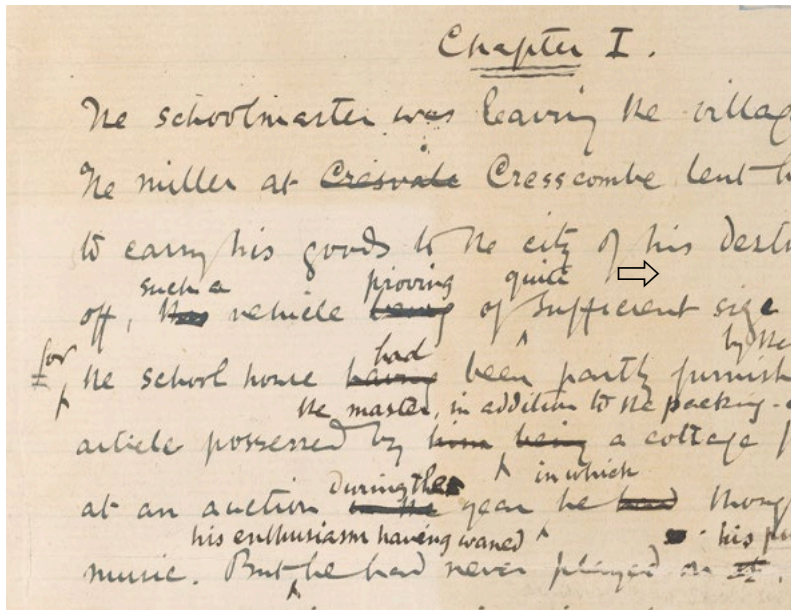
連載雑誌・新聞版にその痕跡は残らない

→編集者に「不適切」と判断された箇所は活字化されない

# 見えない検閲を暴くトマス・ハーディ

ハーディの初版

original readingへ戻る



Thomas Hardy, the manuscript of *Jude the Obscure*, fol. 1 (部分), Fitzwilliam Museum 蔵



# 炎上した *Jude the Obscure*

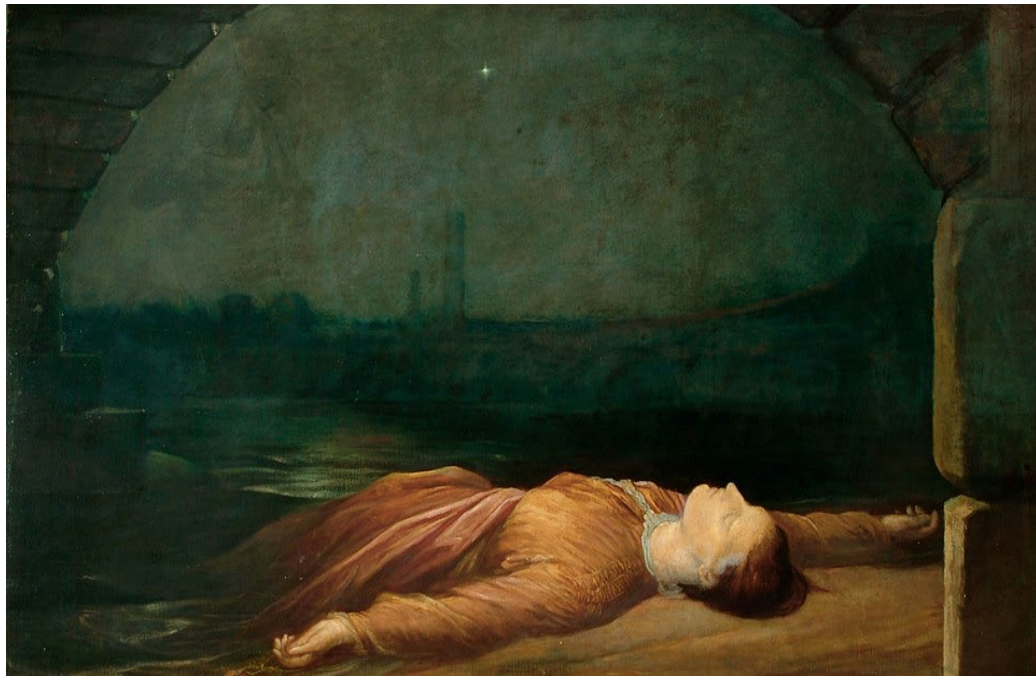
Part I: At Marygreen

Arabella Donn

*Harper's New Monthly Magazine*      castrated version

1<sup>st</sup> edition      original reading

fallen woman fictionのパロディ



G. F. Watts, *Found Drowned* (1848-50) Watts Gallery 蔵



Richard Redgrave, *The Outcast* (1851) Royal Academy of Arts蔵

Charles Dickens, *Oliver Twist* (1837-39) Nancy

Elizabeth Gaskell, *Ruth* (1853) Ruth

Thomas Hardy, *Far from the Madding Crowd* (1878) Fanny Robin

---. *Jude the Obscure* (1894-95) Arabella Donn

インターテクスチュアリティの観点から興味深いArabella Donnの物語

# 検閲の恐ろしさとは

「検閲は物質的・実地的な面で作品の成立を阻むだけでなく、無意識のうちに、人の思考を麻痺させる影響を及ぼすことで、そもそも作品が発想されること自体をも妨げるのである。」

——トマス・ハーディ

\*いつしか書き手が先回りして自己検閲するようになることの恐ろしさ。

\*話す・書く言葉を社会の空気に合わせて最適化してしまう現在の私たち

# 最後に

## 『大衆検閲の時代』のあとがきから

\* 名古屋大学の同僚には日頃から励ましの言葉をかけていただくばかりか、介護と授業の両立が可能になるよう便宜を図っていただいた。細やかな配慮に心より感謝している。

\* 学部・大学院の授業でともにイギリス小説や思想・文化関係の文献を読んだ受講生にも感謝したい。教育と研究との幸福な繋がりを絶えず実感することができたのは、好奇心に溢れ、学びに真摯に向き合う受講生のおかげである。